

Final Stage

白山 山スキー

2000.5/13-14

天候 > 晴 / 曇



メンバー

大塚賢一 45 才 CL
福迫順一 37 才 SL
木倉 博 37 才
中垣早人 30 才

5月も中旬に入ってくると、いよいよ山スキーシーズンも終盤を向かえる。

締めくくりは毎年のように豊峰白山と決めている。

現地に連絡をとると、今年は雪が多いために市ノ瀬止まりだと言う。

市ノ瀬からの別当出合までは6kmのアスファルト路をフル装備を担いで歩かねばならない。

そこで考えたのが、帰りはブレーキ操作のみで下れるのでママチャリにフル装備を積んで押してあがる方法だ。



スペシャルバイク始動

「南竜無人小屋が雪で埋まってどこあるかわからん！、ソンド棒で突き刺して手応え無かったら、時間もたっぷりあるしスコップ装備で雪洞掘りやっ！」

8:34 市ノ瀬スタート

ママチャリに20kgのフル装備を積むとさすがにハンドルもぐらぐらで悲鳴をあげている。途中休憩をはさんで押すこと1時間半。

10:11 別当出合 装備変更スキーザック固定

高度1260mにセットしてスキーザック固定で担ぎであるが、やはり肩に食い込んでつらいものである。早人はママチャリが無いので市ノ瀬からずっと担ぎっぱなしであるので慣れも手伝って余裕の笑みか？彼は今回が山スキーデビュー戦であるので、これくらいの労力は若さで補っているのだろう。

ふと見ると、この駐車場までの林道に雪がべったりと付いているではないか！、これは帰りは担ぎ無しでこの林道を利用すればここまで滑ってこれる、と判断したが・・・。

去年は1650m地点まで滑降可能だったのだが、今年は別当出合まで滑降可能なことからラッキーである。



ややこしいなあ

1300 m付近で早速に雪が出だしてくる。しかし、まだまだブッシュ帯なので板を降るすことは出来ない。こんなブッシュは氷ノ山の流れ尾根から比べると比較にもならないのだが早人は悪銭苦闘に顔をゆがめる。

1400 m付近からは雪もべったりと山肌に付いてきた

ので装備変更、早人の為にはシール登行のほうが練習になるのだが、アイゼンでスキー引っ張りとする。

12:33 1950 m 甚の助避難小屋到着 大休止

甚の助の屋根がほんの少し見えているだけで、このGWにも人が入った形跡がない。これでは南竜避難小屋が見えないかも？。

例年ならこの甚の助までは、登山者やスキーヤーで賑わっているのに、今年はまだまだ雪が多いせいかスキーヤーや登山者もほとんど出合わない。

天候も朝方は曇っていたが、どうにか日もさしてきて、ガスもとれて別山方面が鮮やかに顔を出してきた。

13:54 エコーライン通過

ここも例年ならエコーラインをトラバースしたり直登し



甚の助小屋でラーメンタイム



エコーラインをトラバース

と、言いつつ装備変更である。クレバスだらけのエコーラインから南竜山荘まで滑り込んだ。

14:32 南竜小屋到着 雪洞掘り

滑り込んだがいいものの、やはり予感通り避難小屋は雪の中である。福井県の高校生登山部パーティーが先生とそこらを掘り返したが分からなかったので南竜山荘前の雪壁に雪洞を掘っている最中だった。

我々も早速にストックをソンド棒につなぎ合わせて突き刺して探ってみるが、一向に当たらない。



雪洞掘り開始

たりのトレースがあるのだが今日は全く無しである。急なトラバースを無事に済ますと、日本の庭園の南竜ガ馬場が見えてきた。はるか向こうの南竜無人小屋あたりに人影があるのが確認出来る。

「先客があるわ、小屋はすでに一杯かもしれんなあ、一杯やったら室堂まで登りやな」

「よ~しっ、今年最後の山スキーは時間もたっぷりあるので楽しんで雪洞掘りやっ！」と、早速にピッケルにスコップを装備して二人交代で掘り始める。

設定では1時間半で出来ると思っていたが、入り口を狭く4人が寝れる広さを確保となると2時間半はかかってし



高山病にかかって苦しむ早人

まった。しかしこの白山に快適なしらすぎの別荘が出来上がった。

肝心なときに早人がまだ高度2100mというのに途中でまたもや高山病にかかってしまった。彼のはいつも重病で頭痛を伴い吐いてしまうのだからやっかい極まるのだ。彼とは2人で穂高連峰縦走、そしてこの白山をロング縦走したときも散々な目にあっている。どうしたものか、彼自身

が一番悩んでいる問題だろう。

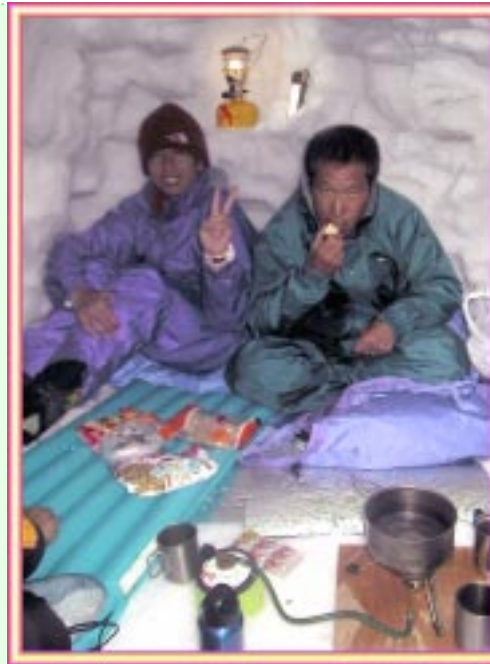
ここをベースにして、別山方面への急な油坂を登って滑降の予定であったが、時間も17時を回ってしまい、疲れも手伝って滑る気が起こらなくなり、晚餐会に早変わりである。

夜は、新築の快適な気温2度の室内でランタンを灯し今シーズンを振り返った山スキー談義に花が咲く。早人も来シーズンからは頑張るって遊ぶと言っていた。



シートの向こうはしらすぎ別荘

しかし、今回の雪洞掘りは時間もたっぷりであり風も無く、また掘りやすい環境にあったのでよかったが、これが吹きさらしの状態でやむなく掘らねばならない状態だとどうなることか・・・経験したくもないが。



別荘内にて飲み会

5/14

5:00 起床

外は真っ白のガスで視界が10mほどだ、完全に身動きとれない状態である。

雪洞内で朝食を済ませていると、しだいに晴れ上がりエコーライン方面も青空が覆いだした。

「よ～し、最後の滑りで山頂まで上がるぞ～っ！、準備にかかろう。」と言っているうちにしだいにまたもやガスに包まれて視界が無くなる。

7:45 計画中止！、アイゼン装備で昨日のトレースをたどり下山準備

やむなく、スキー引っ張りでホワイトアウト寸前の中をコンパスを頼りに昨日のトレースをたどってエコーラインをトラバースである。

・・・(You can not see the wood for trees.) 木を見て森を見ず・・・



ホワイトアウト寸前！

「この真下に甚の助避難小屋があるはずやっ、装備変更でスキー」「なんでわかるん？、まだ下は真っ白やで」「昨日登って来るときにこの岩の真下が甚の助小屋や、と確認とっていたんや、障害物もない。」

急斜面を斜滑降気味で滑るとドンピシャで甚の助避難小屋であった。



どこをどう滑ろうか？

やはり、この1950 m付近ではガスはすっかりなくなり、視界も全然に問題ならない。

さあ、ここから1400付近まで快適スキー滑降である。

しだいに、テクニクがいる樹林帯にはいり、どこへ滑り込もうかと考えながらの滑降である。

欲を出して雪のあるところまで滑って行ったのでいかんせん、

登って来た夏路に出てしまった。どこでどう間違えたのか、林道を滑っていれば下山は担ぐことがなかったのに、再び担ぐ羽目になってしまった。

10:05 別当出合

今シーズンの山スキーも無事に済ませることができてみんな満足顔だ。市ノ瀬で永井温泉に浸かり17時に帰宅した。



南竜山荘

地球を汚染することで、富を得ようとする世の中のシステムがなくならない限り、人間本来の幸せは永遠に得ることが出来ないだろう。

人類にとって21世紀最大の課題である「ゼロ・エミッション」

さあ、衣替えのシーズンが到来だ！。

ストックをパドルとハンドルに持ち替え、板をペダルに乗せ替え、No Snow World の季節がやってきた。今シーズンはさてさてどんなX-Sports を計画しようか・・・。